

問題 B

- 問 1. 高齢者嚥下障害の特徴として、間違っているものを選びなさい。
1. 口腔期障害は軽度である
 2. 不顕性誤嚥が多い
 3. 安静時の喉頭の位置が低い
 4. 咽頭残留が多い
 5. 男性に多い
- 問 2. 人体の部位と疾病, 病態との関連性に関する次の記述のうち正しいものを選びなさい。
1. 吐血とは、気道から口腔を経て血液を排出することである。
 2. 上腕骨骨折は、寝たきりを引き起こしやすい。
 3. 対麻痺とは左右どちらか半身に起こる麻痺である。
 4. 腫骨部の褥創は、仰臥位で起こる。
 5. 声帯の障害は、誤飲を引き起こす。
- 問 3. 高齢者にみられる病態の特徴に関する次の記述のうち正しいものを選びなさい。
1. 皮膚の湿潤は、褥瘡の発症リスクとなる。
 2. フレイル(虚弱)は、慢性疾患の終末期の状態である。
 3. 感音難聴では、低い音から聞こえにくくなる。
 4. 変形性膝関節症は、廃用症候群に属する。
 5. 記憶障害では、短期記憶よりも長期記憶が低下する。
- 問 4. 摂食・嚥下障害で咽頭期に起因する症状を2つ選びなさい。
1. むせる
 2. 咀嚼に時間がかかる
 3. 食事後に声に変化する
 4. 口から食物がこぼれる
 5. 食渣が口腔前庭に停滞する
- 問 5. 脳卒中患者の摂食・嚥下障害で誤っているものを選びなさい。
1. 急性期に高頻度に見られる
 2. 体位調整は誤嚥防止に役立つ
 3. 仮性球麻痺があると生じやすい
 4. 水はペーストよりも誤嚥しやすい
 5. 右側の咽頭麻痺では顔を左に向けて食べさせる

問題 B

問 6. 高齢者の摂食嚥下障害の要因として誤っているものを選びなさい。

- mm
1. 臼歯咬合の喪失
 2. 喉頭位置の下垂
 3. 嚥下反射惹起の遅れ
 4. 嚥下性無呼吸時間の短縮
 5. 嚥下反射に必要な食塊量の増加

問 7. 看護・介護のポイントとして正しいものを選びなさい。

1. 一口量が多すぎないよう、ペースが早くなりすぎないようにし、介助者の意識を嚥下に集中させる。
2. むせていなくても誤嚥している場合があることを考慮することが重要であり、嚥下後に咳払いをさせることはあまり重要ではない。
3. 発熱、痰の増加、呼吸苦など肺炎の発症が疑われる症状がみられたら、すぐに主治医に相談せず経過を観察する。
4. 上肢の運動障害などがある場合は、患者が用いやすい食器を選ぶ。
5. 介助する場合、介助者のペースが早くなりすぎないようにする。

問 8. パーキンソン病/レビー小体型認知症で、ほとんどみられない症候はどれか選びなさい。

1. 小股歩行
2. 舌萎縮
3. 幻視
4. 嗅覚感度低下
5. 嗅覚識別能低下

問 9. 前頭前野眼窩面の機能が低下すると、以下のどの症状が顕著になることが多いか選びなさい。

1. 運動失調
2. 脱抑制行為
3. 片麻痺
4. 嚥下障碍
5. 空間認知能低下

問 10. パーキンソン病でみられる症状はどれか。組み合わせを選びなさい。

- a. ミオクローヌス
 - b. 姿勢反射障害
 - c. 小字症
 - d. 失調性歩行
 - e. 弛緩性麻痺
1. a、b 2. a、e 3. b、c 4. c、d 5. d、e

問題 B

- 問 11. アルツハイマー病の病理学的検査はどれか。組み合わせを選びなさい。
- 老人斑
 - 脱髄斑
 - レビー小体
 - ピック小体
 - 神経原線維変化
1. a、b 2. a、e 3. b、c 4. c、d 5. d、e
- 問 12 早い人では40歳代～50歳代から起立性低血圧、排尿・性機能障害で発症し、進行すると歩行障害・嚥下障害・呼吸障害が出現する疾患を選びなさい。
- 筋委縮性束索硬化症
 - アルツハイマー型認知症
 - パーキンソン病
 - 多系統萎縮症
 - 前頭側頭葉変性症
- 問 13 発症早期から姿勢保持反射低下により転びやすくなり、経過中に眼球運動障害、認知機能低下、晩期になれば嚥下障害、発話障害が出てくる疾患を選びなさい。
- 脳血管性認知症
 - アルツハイマー型認知症
 - 前頭側頭葉変性症
 - レビー小体型認知症
 - 進行性核上性麻痺
- 問 14 「情の脳」といわれ、認知症の行動・心理症状に関与している脳の部位はどこか？
- 海馬
 - 黒質
 - 扁桃体
 - 乳頭体
 - 小脳歯状核
- 問 15 嚥下機能が障害された患者において、下記の大脳・脳幹反射の中で減弱・消失することが多いのはどれか選びなさい。
- 眉間反射
 - 人形の目反射
 - 軟口蓋反射
 - 下顎反射
 - 吸引反射(吸てつ反射)